

## コミュニティバス運行改善検討業務について

## 現状

御所市のコミュニティバスは平成15年4月に運行を開始し、バス2台が市内を主に東西の2ルートに分かれて循環運行している。その後、一部交通空白地へのルートが試験運行から実運行に移ったものの、これまでに大きなコース変更は無く、概ね10年間となる。

この間に、人口減少が進み、バス利用者も年々減少しており、今後の地域公共交通を考える場合に、長期的な視野に立って、現行のコミュニティバス運行のあり方を検証する時期にきている。

一方、バス交通を取り巻く状況が厳しさを増し、奈良交通(株)が運行するバス路線の必要性を検討することが求められ、路線バスの見直しによるコミュニティバスのルート見直しも必要な時期になっている。

また、老朽化したコミュニティバスの車両を入れ替えるため、1台は平成23年度で更新したものの、残る1台は平成26年度での更新を予定している。その際には、交通空白地域へのバスを乗り入れるために、車両をダウンサイジング化して普通車両の導入を検討することが求められている。

さらには、市民からの要望としては、定時のバス運行ではなく、デマンド交通による新たな交通体系の検討も求められている。

以上のように、本市のコミュニティバス運行の改善への検討は喫緊の課題であると言える。

## ポイント

現行のコミュニティバス運行の路線を検討するに当たり、

- ① 現行の路線バスの必要性を検討する。その際には、路線バスの費用対効果を十分に検証し、最も効果的な方策を導き出す。
- ② 御所市の地域公共交通にデマンド運行が有効か、効果的か、必要か、を検討する。実際のデマンド交通の実証運行をするのは初期経費が大きく、難しいので、シミュレーションにより検証して分析する。
- ③ 空白地域への路線の必要性、有効性、効果を十分に検討する。その結果、新たな路線、路線の見直し、廃止等を導き出す。
- ④ その他、市内の地域公共交通全体として、コミュニティバス運行が果たすべき役割、必要性を検討する。

## 目標

すべて考慮した上で、新たな交通が必要か、コミュニティバスの再編が必要かを検討し、結果を導く。

その結果に基づき、地域交通の再編プランをまとめる。  
その再編プランを市域に導入する手法を検討し、導入プランを作成する。  
その導入プランに沿って、地域住民からコンセンサスを得て、また市議会の同意を得た上で、地域交通の再編を進める。

## その他

御所市地域公共交通会議において平成23年度の計画事業として「コミュニティバス見直し方針検討業務」を実施しているが、新たな課題として路線バスの必要性の検討、デマンド交通の検討等を整理した上でコミュニティバスの運行改善検討を行うことが必要になる。

よって、今回の業務を行うにあたっては、先の業務結果を十分に踏まえつつ、新たな視点で取り組んでいくことになる。